



ほりかね道

狭山市立堀兼中学校便り
令和6年度5月号
発行者 和田雅士

堀兼中生の人間性を高める5月の具体的行動目標

「一日一回以上は拳手をし、発言できる」(自分のために学習に真剣に取り組む)

大人が頑張る姿を子どもは見ている

イギリスの哲学者、ハーバード スペンサーの言葉に「子どもは父母の行為を映す鏡」という有名なものがあります。私の過去を振り返ると、自分の子どもの行動が両親のそれとそっくりだったり、家庭での私のだらしないふるまいを叱る幼少の娘の遣う言葉や言い回しの中に、妻が子ども(や私)を叱る時の言葉や言い回しが数多く出てきたりするのを思い出します。私の子育てには、良くも悪くもスペンサーのこの言葉に思い当たるふしが多くて、失笑してしまいます。数年前の毎日新聞の中に目にとまる投稿記事があったので紹介します。

「頑張る姿」

中3になった息子が全く勉強しない。理由は「お母さんの頑張らない姿を見ていると、ぼくも頑張れない」とのこと。言われてみれば、これをやっています!と胸を張って言えるようなものが一つもない。そこで、独身だった頃に趣味で書いていた童話をもう一度始めてみようと思い立った。ネタは息子が小さい時に言ったりやったりしたことだ。昔の日記を参考にしながら、あれこれお話を考えるのは楽しい時間になった。息子のあどけない姿を思い出すと、反抗期の今の憎らしさも半減する。一石二鳥だ。「入賞したらどうしよう」と心配している私に「それはないな」と軽くあしらう息子。お母さんも頑張っている、という姿を見せようじゃないか。心の中でひそかに思っている。

滋賀県甲賀市 45歳主婦

日常生活における何気ない親子のやりとりですが、微笑ましい光景の中に、私は親としての自覚とこの母親の小さな決意を感じます。「勉強しなさい」「頑張りなさい」と言っても素直に行動しないのが中学生、言葉で指示するより、親が何かに頑張っている姿を自然な形で子どもに見せる方が、親の思いを子どもが心で感じ取ることができるのではないのでしょうか。子どもが漫画を読んでいた、ゲームをしていたりする同じ空間で、読書をしたり、趣味に打ち込んだりの小さなことでも、親が頑張っている姿を子どもは見えています。そしてその姿がやがて、子どもという親の鏡にはっきりと映しだされるのでしょうか。

狭山市市制施行70周年記念事業 ともに未来へ狭山市×こども宇宙プロジェクト

5月1日(水)に標記のプロジェクトの一環として、一人ひとりが書いた「夢」を示した台紙を掲げたクラス写真と学校全体写真を撮りました。あいにくの天気のため、人文字は後日に延期になりました。生徒の夢を載せた写真アートが今年12月から来年の1月にかけて宇宙空間を旅します。(2年生の写真の一部を掲載します。)

